

[08\_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
8(2)

<https://doi.org/10.15017/18268>

---

出版情報 : 図書館情報. 8 (2), pp.7-14, 1972-02-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :



## 図書館情報

1972.2

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 8, No. 2

## パリ・コンミューンの資料と百年記念出版について

柳 春 生

昨年3月18日は、パリの労働者が5月28日まで72日間世界史上はじめて国家権力を握った、かのパリ・コンミューン百年を記念する日であった。それで、パリを中心として世界各国でこれを記念する研究集会<sup>(註1)</sup>がもたれ、同時に数多くの論文、著書、資料が刊行され、現在もなお続行されている。

1. 昨年の夏これを記念する旅行が企画されたので私もこれに加わり、8月10日ロンドンのカール・マルクス記念図書館を訪れてコンミューン関係の資料を閲覧したが、マルクスの娘エレアノル (Eleanor Marx Aveling) も参加した、1890年3月19日のパリ・コンミューン記念集会にかんする資料があって、表紙だけリプリントしてもらった。ほかに珍しいものでは、マルクスがロンドンに亡命したときのフランス政府が出したパスポートの写本があった。マルクスの墓、彼の住んだ家、第一インターナショナル総務委員会の家屋を調査して、11日パリに着き、パリ・コンミューンの蜂起を惹きおこしたモンマルトルの丘、コンミューンの戦士たちが全滅したペール・ラシェーズの墓地を調査した。12日ビブリオテーク・ナショナル (Bibliothèque Nationale) とアルヒーフ・ナショナル (Archives Nationales) を訪れた。ビブリオテーク・ナショナルは有名なルイ十四世の宰相リシュリュー (Richelieu) の邸宅の跡といわれているが、1895年レーニンがパリ・コンミューンの歴史を研究したところである。つづいて、フランス共産党中央委員会附属モーリス・トレーズ研究所 (Institut Maurice Thorez) を訪れて、ここでコンミューン関係の原資料の殆どすべてを閲覧することができた。フランス共産党中央委員会は丁度新建築中で、ブラジル共産党の著名な建築家ニーマイア氏の設計による6・7階のきわめて美しい建物であった。モーリス・トレーズ研究所はオーギュスト・ブランキ通りの静かな二階の建物で、Président ジョルジュ・コニヨ氏 (Georges Cogniot), Directeur ヴィクトル・ヨアネス氏 (Victor Joannès) はともにソ連に会議で出張中であつた。だが館員の人達 (女性) は多数の資料を書庫からもってきて、私の指示した箇所を複写してくれた。その重要なものを掲げる。

Journal officiel de la Commune de Paris.

これは1871年当時発行されたパリ・コンミューンの官報で、普通の新聞紙ぐらいの大きさで、Journal officiel de la République Française. No. 79. につづくものである。これは、また菊版の大きさに再版されている。すなわち——

Reimpression du Journal officiel de la République Française sous la Commune du 19 mars au 24 mai 1871. première édition. Paris. Victor Brunel, Éditeur. 1871. <sup>(註2)</sup>

さらに、Journal officiel de Paris pendant La Commune. (20 mars—24 mai 1871) Paris. L. Beauvais, Libraire-Éditeur. 1871. があげられる。

つぎに、コンミューンの議事録は二巻にわかつて出版されている。

Procès-Verbaux de La Commune de 1871. Édition critique par Georges Bourgin, Gabriel Henriot. Tome I<sup>er</sup> (mars-avril 1871) Paris. Édition Ernest Leroux. 1924.

Tome II. (mai 1871) Paris. Imprimerie A. Lahure. 1945.

この書は日本では東京大学文学部西洋史研究室に入っている。なお、これは、ソ連科学アカデミ歴史研究所で В. П. Волгин, Э. А. Желубовская, А. И. Молок 監修のもとに翻訳された。

Протоколы Заседаний Парижской Коммуны 1871 года. Том I. 21 марта—30 апреля. издательство Академии Наук СССР. Москва. 1959.

Том II. 1 мая—21 мая. 1960.

その他のコンミューン議事録には、つぎのものがあげられる。

Les Conciliabules de L'Hotel-De-Ville. Comptes-rendus des Séances du Comité central et de la Commune. par J. D'Arsac. Paris. F. Corot, Éditeur. 1871.

Les 31 Séances officielles de la Commune de Paris. Paris. Revue de France, E. Lachaud, Éditeur. 1871.

この後者は1970年に写真版で再版されたので入手で (François Maspero) きる。さらに、コンミューンの法令集にはつぎのものがある。

Bulletin des Lois. Arrêtés, Décrets et Proclamations de la Commune de Paris. Recueil de tous les actes officiels du 26 mars au 23 mai 1871. Paris. Librairie internationale. A. Lacroix, Verboeckhoven et C<sup>e</sup>, Éditeurs.

つぎに、コンミュン研究の古い歴史書としてはつぎの5巻の書物があるが、このうち4巻だけしかここにはなかった。

Grand Histoire de la Commune. par Georges Soria. Tome 1. Tome 2. Tome 3. 1870. Tome 4. 1871.

パリ・コンミュンの多くのマニュスク립トの展示会がパリ郊外サン・ドニ市 (Saint-denis) の博物館に展示されていたので、13日午後2時サン・ドニ市庁 (この市長は17年間つづいてフランス共産党員である) を訪問し、展示会について詳しい説明をきいた。展示されていた多くのマニュスク립トには、コンミュンの中期から後期にかんするものがとくに目立った。その総目録は、寄贈された小冊子 La Commune de Paris 1871-1971. Exposition du Centenaire. Musée d'art et d'histoire de Saint-denis du 18 mars au 13 septembre 1971. のなかに収められている。

2. パリ・コンミュンにかんする研究はフランスとソ連とが圧倒的に多い。フランスにおける研究については、桂圭男氏「最近におけるパリ・コンミュン研究の動向」(「歴史学研究」373号)、および1971年にレニングラード大学で刊行された小冊子 Парижская Коммуна и современность. にて詳説されているので重複を避けるが、つぎの点だけを指摘しておく。P. O. Lissagaray, Histoire de la Commune de 1871. Paris, 1876. の Eleanor Marx Aveling による英訳 History of the Commune of 1871. は1967年 Monthly Review Press で再版された。また、Georges Bourgin, La Guerre de 1870-1871 et La Commune. 1938. Éditions Nationales. も1971年に Editions Sociales にて再版され、さらに Jean Bruhat, Jean Dautry, Émile Tersen, La Commune de 1871. Édition Sociales. 1960. も1970年に改訂増補され (deuxième édition revue et complétée), 昨年独訳が出版された。(Die Pariser Kommune von 1871. Veb Deutscher Verlag der Wissenschaften. Berlin. 1971.)

つぎに、原資料の出版ではつぎの二つをあげる。Louise Michel, La Commune—Histoire et Souvenirs. I. II. 1970. François Maspero. ルイーズ・ミッシェル, 天羽均, 西川長夫訳「パリ・コンミュン」——女性革命家の手記——人文書院, 1971年。Le Cri du Peuple. par André Roseel. Les Yeux Ouverts.

研究論文では、リヨンのリセ (Lycée) の歴史の教師モーリス・モアソニエ氏のつぎの論文がとくに秀でている。Maurice Moissonie, The Experience of the Commune. Marxism and the Problems of the State. (Marxism Today. vol. 15. N.3. march, 1971.) また、ソブール教授の力作 Albert Soboul, Problème de L'Etat Révolutionnaire. (La Pensée, N° 158, aout 1971.) は、フランス大革命とパリ・コンミュンとの関連性を述べている。フランス共産党の機関誌 Cahiers du Communisme. 1971. 3. はパリ・コンミュンの特輯したが、そのなかにはマルクス主義国家論にかんする 2, 3 の重要な論文がある。

3. ソ連におけるパリ・コンミュン研究では、П. М. Керженцев, История Парижской Коммуны 1871. изд-во. Социально-Экономической Литературы. Москва. 1959. 並びに、科学アカデミ歴史研究所で出版された, Э. А. Желубовский, А. З. Манфред, А. И. Молок, Ф. В. Потемкин の共同編集, Парижская Коммуна. I. II. 1871г. Москва. 1961, Н. М. Лукин, Избранные Труды. Том III. «Парижская Коммуна». изд-во. Академии Наук СССР. Москва. 1963. が力作として知られていたが、いまコンミュン百年記念で多くの小冊子、著書が出版され、そのなかではつぎのものが良書としてあげられうる。

Maurice Choury, La Commune au cœur de Paris. Paris. 1967. の翻訳, Морис Шурн, Коммуна в сердце Парижа. изд-во. «Прогресс». Москва. 1970.

Академия Наук СССР Институт Всеобщей Истории における З. А. Желубовская, А. З. Манфред, М. Н. Машкин, А. И. Молок, С. В. Оболенская, Ф. В. Потемкин の共同編集, История Парижской Коммуны. изд-во. «Наука». 1971.

А. Ф. Шебанов 監修, Государство и Право Парижской Коммуны. «Юридическая литература». Москва. 1971.

つぎに、とくにすぐれた論文としては、次の二つがあげられる。

Л. С. Мамут, Парижская Коммуна—первое пролетарское государство. «Знание» 1971. Серия «Государство и право» 1.

В. А. Дунаевский, Парижская Коммуна в трудах В. И. Ленина. «Знание» 1971. Серия «История» 5.

4. パリ・コンミュンにかんするマルクス主義古典の出版としては、とくにつぎのものがあげられる。

Erich Kundel 編集, Tagebuch der Pariser Kommune. K. Marx. F. Engels. Dietz Verlag.

Berlin. 1971.

Edited, introduced by Christopher Hitchens, K. Marx The Paris Commune 1871. Sidwick & Jackson. London. 1971.

Marx, Engels, Lénine, Sur la Commune de Paris. Éditions du Progrès. Moscou. 1971.

马克思, 恩格斯, 列宁, 斯大林「论巴黎公社」, 第2版, 人民出版社, 1971年。

5. 最後に日本の状況であるが, 桂氏による前記の論文と岩波新書「パリ・コムニオン」, 1971年, 岩波「世界歴史」, 20巻のなかの同論文があげられる。その他, 「赤旗」3月15日, 16日, 柳 春生「百周年を迎えたパリ・コムニオン」, 「歴史評論」191年8号(特集, パリ・コムニオン100年)のなかの論文, 柳 春生「マルクス主義国家論とパリ・コムニオン」, 松野千鶴子「コムニオンと民衆組織——クラブ」がある。最近の翻訳では, ジャック・デュクロ著, 小出峻訳「パリ・コムニオン」, 新日本出版社, 1971年, ルイーズ・ミッシェル前掲書があげられる。

6. さらに, パリ・コムニオン百周年を記念した古書目録が出されている。104ページの小冊子であるが, 極めて貴重である。すなわち, 1870—1871 La Guerre Les Sièges La Commune. Clavreuil.

註1 これについては, 柴田三千雄「パリ・コムニオン百周年シンポジウムに出席して」(季刊社会思想, 1巻3号), 「パリ・コムニオン百周年国際シンポジウム」(世界政治資料, 1971年7月上旬号), 「パリ・コムニオン百周年記念国際理論会議」(平和と社会主義の諸問題, 1971年夏季号), 参照。

註2 これは一橋大学図書館にある。すなわち, Journal officiel de La Commune. 1871. Revue de France. Paris. E. Lachaud, Éditeur.

—1972. 1. 22—

(やなぎ・はるお: 産業労働研究所長・教授)

## 目 録 47. 1. 1. ~2. 20

1. 11. 新館工事施工の佐藤工業KK, 九大作業所福田所長外挨拶に来館
1. 14. 本学経理部による会計部内監査
1. 17. 学内図書系掛長研修会  
年末より休止中の夜間開館始まる
2. 1. 福岡地区大学図書館研究会(昭和46年度 第4回)於九大医学図書館  
定例休館日
2. 4. 事務改善研究協議会図書館業務専門委員会
2. 9. 館内図書選定委員会
2. 12. 国立国会図書館整理部長富田英俊氏来館
2. 14. 後期試験にともない夜間開館延長  
国立大学図書館協議会常務理事会(昭和46年度 第3回)ならびに「新しい大学図書館像委員会(第8回)」, 於京都大学附属図書館, 東閲覧課長, 小野整理課長補佐出席
2. 15. 文部省主催「ドキュメンテーション講習会(第11回)」15日~18日, 於 京大楽友会館, 朝倉参考掛長出席
2. 18. 館報「図書館情報」編集委員会

## 「図書館業務機械化研究会」発足

かねて館員の間に盛り上りつつあった, 業務機械化研究への意欲は, 有志の努力と斡旋により遂に「研究会」発足の運びとなり, 1月18日第1回目の研究会が持たれた。引続き2月19日第2回が開かれ, 集った館員の熱気が漲っていた。今後の成長を願うと共に, こうした気運の盛んとなることを期待したい。

## お 知 ら せ

### 電話番号の変更 (中央図書館)

中央図書館では, このたび電話の新設に伴い, 電話番号の変更がありましたのでお知らせします。

館 長 (5300)

事務部長 (5301)

#### < 整 理 課 >

整理課長 (5302)

課長補佐 (5312)

庶務掛長(昼間のみ) (5303)

庶 務 掛 (5313)

会計掛長 (5304)

会 計 掛 (5314)

受入掛長 (5305)

受 入 掛 (5311)

同 (5315)

目録掛長 (5306)

目 録 掛 (5316)

同 (6297)

#### < 閱 覧 課 >

閲覧課長 (5307)

閲覧掛長 (5308)

閱 覧 掛 (5318)

参考掛長 (5309)

参 考 掛 (5319)

複写印刷室 (6295)

情報資料掛長 (5310)

情報資料掛 (5317)

#### < 共 通 >

宿直室(夜間64-2136) (5303)

用務員室 (6298)

## 件名索引法と MEDLARS について (その3)

長 尾 公 司

## 1. 索引の対象

MEDLARS の主題領域は、医学およびその関連分野としての生物学であり、索引作業の対象となるのは、List of journals Indexed in Index Medicus にリストされている、世界各国で発行されている2,250タイトルの雑誌に収録されている論文とトピックスである。そして、(1)原著論文(これは、長さや形態の如何にかかわらず索引される)(2)医学関係人物の伝記および死亡記事で実質的なもの、(3)臨床・病理討論会(C. P. C)の記事、(4)学会で発表された科学的資料の報告類、(5)事実上論文とみなされるような論説記事、(6)論文と考えられるような“読者の投書”(Letter to the editors)(7)学会の住所録や会員名簿、(8)シンポジウム、パネル、円卓会議などで明確な主題をもったものは、公式、非公式の別を問わず索引する、などがその要点である。

## 2. 語述索引と件名索引

大部分の機械検索システムが、KWIC などのようなキーワード索引法を採用しているのに対して、MEDLARS は、機械検索システムとしては数少ない件名索引法の採用例である。そしてこの件名索引法では、主題分析能力をもつ索引専門家が必要となり、MEDLARS の索引および検索作業の中での、人間の知的能力に頼らなければならない部分は大きい。

索引は、記述索引と、件名索引との2つの部分に分けて考えられるが、記述索引は、書誌的データのみなので、機械的に処理できる部分である。やはり、MEDLARS の索引作業の重点は、件名索引作業、すなわち主題の把握と件名の決定にあるということができよう。

主題の把握については、(1)その論文中のどんな概念が、Index Medicus や、MEDLARS の利用者にとり有益か、(2)その論文中のどんな概念が、将来利用されうるか、(3)その論文あるいは、そこに含まれている事実のどの部分が、たとえ主眼点でないにしても、関連研究にとって価値のあるものか、(4)どんな種類の研究者がその論文に興味を持つだろうか、(5)その論文のどの部分が、掲載誌の目的と合致しているのか、(6)論文の内容が、既存の索引用語で表現できるものか、それとも新しい用語を必要とするか、などに注意を払いながら、まず論文のタイトル、序文、内容見出し、図表、結論、要約といった順序に目を通し、主題の確認につとめる。こうして把握された主題について、そのガイドなる件名を MeSH に求めることになるが、これには次の原理がある。

- (1) 一致性 MeSH の内容および規定にしたがう。
- (2) 一貫性 NLM でたてられた索引に関する方針にしたがい、件名の使い方も一貫性をもって行なう。
- (3) 不偏性 索引者は、論文のどの面がどんな研究者にとって有益か予測して、個人的判断を下したり、偏見をもったりすることはできない。
- (4) 正確さ MeSH には、きわめて一般的な大きな概念を表わす件名から、小さな下位概念を表わす件名まで含まれている。索引者は、できる限り正確でまかな件名を使うことが要求される。
- (5) 多面性 Index Medicus および MEDLARS は、多方面にわたる利用者に使われるものであり、したがって、いろいろの面から文献がとらえられるようにする必要がある。

以上の原理にしたがって、主件名および副件名を選ぶことになるが、このためには、公刊の MeSH (表紙の色から Black MeSH と呼ばれている) の内容に、仮件名が加えられたもの(この仮件名は、年度末に、使用頻度などの面から評価され、翌年の MeSH への採用、不採用、あるいは保留の方針が決定される。仮件名は、機械検索には使用されるが、Index Medicus 用としては使用されない)、MeSH の Categorized list を、さらに4段階の階層に排列した、概念の上下関係を調べるためのツールである MeSH Tree structures, Authority file などが使用され、MEDLARS Indexing manual が、詳細な指示を与え、Technical note によって、索引方針の変更が速かに指示される。

件名・選定の原則としては、(1)論文中の主要な概念・主題はすべて索引する。(2)概念・主題は、できるかぎり正確で詳しい件名を用いて表現する。(3)同一の概念を表現するのに、その概念そのものを表わす件名と、その上位概念を表わす件名とを同時に使用してはならない。(4)ただし、実際に両方の概念が論文中で扱われている場合には、それぞれを表わす件名を用いてさしつかえない。(5) pre-, post-, pseudo- などの接頭語のついた言葉で、MeSH に該当の用語がない場合には、それら

に最も近い概念を表わす語を用いる。(6)ある概念に関する否定的な事柄(ネガティブな結果)も、その概念を表わす件名を用いる。などが適用されている。煎じつめれば、MeSHの理解が、索引作業の鍵になっているといえることができる。

### 3. 索引作業に使用される主件名以外の事項

MEDLARSのIndexing sectionでは、データ・シートの上で作業が進行する。索引の対象となる雑誌には、あらかじめDepthとNon-depthの指定がある。Non-depthの場合は、通常3-5の件名を与えられるのに対し、Depthの場合は、その他の細かな概念まで索引することになる。その件名は平均10~15である。また、総説(Review)は、掲載誌の如何にかかわらず、Depth扱いである。

索引の段階で、Index Medicusにプリント・アウトされる件名には、IMの表示がなされ、磁気テープには蓄積されるが、Index Medicusにプリント・アウトされない件名には、NLMの表示がなされる。IMに指定されるものは、最もよく論文の内容と著者の意図をとらえた件名である。

副件名は、主件名に対して助記的な働きをするもので、60あって、主件名によって表わされる概念のある特定の面を指示する。

約270の地名も、NLMとして索引に使用される。

データ・シートに、あらかじめ印刷されているCheck tag(照合事項)は、(1)Reviewかどうか。とすれば、その引用文献数、(2)英文抄録の有無、(3)妊娠に関連のある内容かどうか。(4)論文の中の扱われている対象の年令層。(5)実験動物の種類。(6)歴史的時代区分。(7)研究のタイプ、を表わす諸項目を指示するものであるが、これもNLMとして扱われる。

### 4. 機械検索とマニュアル検索

MEDLARS索引法の根幹をなしているのは、概念整合(Concept coordination)の考え方である。一つの主題をより正確に、詳しく表現するために、同時にいくつかの件名なり概念を組み合わせ、多次元的なとらえ方をすることから、Coordinate indexingと呼ぶのである。副件名やCheck tagも、索引の精度を高める意味で、生きてくると考えてよいと思う。また、使用頻度の高い用語関係については、Pre-coordinated heading(複合作件名)として、MeSHに採用されている。

機械検索の場合は、この概念整合を最大限に利用して、精度を高めることができるが、Index medicusでは、一つの件名の下に、文献のレファレンスを求めなければならないという難点がある。この点は、機械検索と、Index medicusの出版との間に起る大きな矛盾にもなっている。しかし、MEDLARSが開発されたために、Index Medicusが、かえって使い難くなったのではないかという声もあるにせよ、印刷雑誌の利用価格は見捨てることはできない。

おわりに

馳足でMEDLARS索引法的一端にふれたが、現在までNLM内部だけでなく、各方面でいろいろな評価が行なわれている。それらがMEDLARS IIの中で、どのように活かされているか興味ある点である。

### MEDLARS 関係邦文文献

天野善雄：JICSTのメドラス導入計画にもとづく国内未蔵誌の調査、収集、分置；医学図書館16, 231~260, 1969

Austin, C. J.: MEDLARS 1963~1967. 小川治之他抄訳；医学図書館 16, 47~64, 1969

Cummings, M. M.: 生医学の情報活動：機械化された図書館網の開発, 第1回日米大学図書館会議議事録, 219~226, 1969. 福留孝夫：“Index Medicus”の改訂について, 医学図書館, 10, 25~27, 1963

花房征夫；丸谷治一：調査・研究図書館の革新——NLMのMEDLARSを軸に；医学図書館14, 153~174, 1967

医学情報活動の未来を語る[座談会]：裏田武夫；須田 勇；津田良成；外山敏夫；宮地 徹；(司会) 樫田良精；小林 胖；佐々木 即；杠 文吉；情報管理 11, 192~201, 1968

Index Medicus 収録和雑誌及び協会加盟館における重要和雑誌——日本医学図書館協会——, (監修)津田良成；裏田武夫, (集計)河辺敦子；近藤きみ；医学図書館 12, 231~259, 1965

川野惟二：MEDLARS サーチ(MEDLARSについて. その2)；情報管理 13, 350~365, 1970

河島裕子：MeSHによる単行本の件名目録の問題点——副標目の使用法を中心として——医学図書館 17, 181~208, 1970

木村重保：NLMとそのMEDLARSの最近の活動(MEDLARSについて, その1), 情報管理13, 297~308, 1970

小林芳人：医学文献情報検索システム；情報管理 13, 165~169, 1970

小林 胖：医学情報ネットワークにおける日本科学技術情報センターの役割と可能性（特集：医学情報の全国的ネットワーク）；医学図書館15, 211～215, 1968

Lancaster, F. W.: MEDLARS の効果に関する報告, 片山満紀子訳；Library System 8, 31～47, 1969

松村多美子：Index Medicus の使い方, 東京, 日本医学図書館協会, 1971

松村多美子：機械化・標準化のための目録・分類・索引作業——件名索引法と MEDLARS について. 昭和44年度(文部省)大学図書館職員長期研修講義要綱, I, 87～101, 1969

松村多美子：メドラスの索引法 特にマニュアル及び機械検索に関連して；医学図書館16, 31～37, 1969

松村多美子：ランカスターのメドラス実績評価を通してみたメドラスの索引法, Library and Information Science No. 8, 123～138, 1970

松村多美子：メドラス (MEDLARS) の役割——世界をつなぐ医学情報のネットワーク——科学朝日, 30 (5), 140～143, 1970

松村多美子：メドラスについて, 医学のあゆみ, 78, 435～439, 1971

長尾公司：機械化・標準化のための目録・分類・索引作業——件名索引法と MEDLARS について, 昭和45年度(文部省)大学図書館職員長期研修講義要綱, II, 89～124, 1970

長尾公司：電子計算機作成書誌利用上の問題点——研究集会補講, 医学図書館15, 439～441, 1968

長尾公司：医学における IR システム(2) 医学文献検索, 最新医学 26, 1568～1575, 1971

中村幸雄：医学・農学における情報ネットワークについて；医学図書館16, 179～185, 1969

中野国治；福永寿夫：九州大学医学図書館医学件名標目表第2稿 1970年について. (九大)図書館情報 7, 33～35, 1971

緒方富雄：アメリカにおける医学ドクメンテーションの実際——国立医学図書館その他の実例——；ドクメンテーション研究14, 83～89, 1964

大瀬貴宏：MEDLARS；情報管理12, 224～249, 1969

斉藤和男：米国国立医学図書館の情報管理体系 MEDLARS 計画について；情報管理7, 19～25, 1964

佐藤和子；吉川博子：レファレンスワーク実務——Index Medicus サービス, 医学図書館 17, 23～47, 1970

渋谷喜雄：米国医学図書館援助法案——Medical Library Assistance Act of 1965；医学図書館15, 51～60, 1968

菅宮和夫：西欧および北欧諸国における MEDLARS 導入の現況について, 情報管理 14, 356～365, 1971

Tain, S. I.: 医学文献の分析と検索方式, 花房征夫, 丸谷治一訳；現代の図書館 2, 194～201, 1964

谷口真弓：MEDLARS による文献検索サービス——Demand Search Service；医学図書館11, 201～17, 1964

津田良成：MEDLARS の動きとその限界, 医学図書館 12, 131～151, 1965

津田良成：米国国立医学図書館 (NLM) の MEDLARS 計画をめぐって(1)～(2)；ドクメンテーション研究16, 168～171；17, 7～11, 1967

津田良成：Hermer の提案した『米国における医学図書館及び情報システム』(特集：医学情報の全国的ネットワーク)；医学図書館15, 277～290, 1968

津田良成：医学文献情報探索システム MEDLARS について；科学技術文献サービス No.26, 1～5, 1969

津田良成：“Index Medicus” について；医学図書館 13, 239～248, 1966

津田良成：MEDLARS への協力とその利用；Library Science No. 5, 153～169, 1967

津田良成：MEDLARS の日本におよぼす影響；情報管理 8, 17～20, 1965

津田良成：医学情報の全国的ネットワーク；Library and Information Science No. 6, 1～26, 1968

津田良成：医学情報センターへの変貌；Library and Information Science No. 8, 139～156, 1970

津田良成：医学図書館に於ける文献情報探索サービスとその限界；Library Science No. 4, 63～88, 1966

津田良成：医学図書館における研究調査への奉仕；図書館雑誌59, 3, 73～78, 1965

津田良成：わが国の医学分野における情報活動；情報管理 13, 434～442, 1970

津田良成；藤井和夫：医学情報活動のネットワーク（特集：医学情報の全国的ネットワーク）；医学図書館 15, 197～209, 1968

裏田和夫：MEDLARS と Excerpta Medica システム(情報検索応用講座 ⑤)；ドクメンテーション研究 21, 57～67, 1971

裏田和夫他：米国国立医学図書館への収集, 目録作業の協力, 医学図書館 17, 209～224, 1970

国 本稿は, 昭和45年度大学図書館専門職員長期研修のための講義要綱としてまとめたものの一部である。

(ながお・こうじ：中央図書館整理課長)

## レファレンス・コーナー

(その12)

——中央図書館情報資料掛——

中央図書館の情報資料掛(電・5310)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行なっていますが、ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

**質問1** 土木学会発行の「土木工学論文抄録」の応用力学部門に、RIAM(九大) Vol. 4, No. 14 とあり、九州大学応用力学研究所の教授の論文が掲載されているらしい。RIAM は、なんという雑誌の略名か。

**回答例** RIAM の AM は Applied Mechanics (応用力学) の略と考え、九州大学学術雑誌目録・自然科学欧文編で調査。九州大学応用力学研究所欧文紀要(Reports of Research Institute for Applied Mechanics)の略名。

**質問2** 九州(または福岡)の労働運動史および学生運動史に関するもので、戦前に出版されたものはないか。

**回答例** あるものはすべて戦後発行のものばかりで、戦前のものは見当らない。おそらくあっても戦時中に処分されたものと思われる。九州経済調査協会(福岡市天神4の7)が、九州に関する労働運動の資料に詳しいと思われるので紹介した。

**質問3** 1971年に入って発表された W. J. Yang, R. Echigo, D. R. Wotton, J. B. Hwang: Experimental studies of the dissolution of gas bubbles in whole blood and plasma.—I, II. という論文は、何という雑誌に掲載されているか。

**回答例** Current contents: life science. (weekly) によって次のとおり回答した。掲載誌は, Journal of biomechanics. Vol. 4, No. 4, 1971 (July) p. 275-288.

**質問4** 日本電波株式会社の出取引先を知りたい。

**回答例** 会社総鑑 1971(670.3 Ka 21 1971-1)によって、主要仕入取引先7カ所と主要販売取引先9カ所を回答した。

**質問5** 杉山 博の学位授与年月日と、その対象となった論文標題を知りたい。

**回答例** 日本博士録 昭和35年集(650-25)によって次のとおり回答した。学位授与: 昭和35年3月9日, 九州大学。主論文: Contributions to the monte carle methads.

**質問6** アメリカの New School for Social Research の創立年、現在の規模、スタッフ名、出版物およびその価格などを知りたい。

**回答例** The World of learning 1970-71. (060 W 88 1970/71) と Ulrich's international periodicals directory 1969-70 (010U26) によって調査。創立年 1919年, 教員数498名, 学生数14,000名, President は John R. Everett, 大学院の長は J. J. Greenbaum.

学部部長は A. Austill. 出版物は Social Research (季刊・年間10ドル)と, City Almanac (隔月刊, 年間15ドル)である。

**質問7** 1971年に創刊された Transport theory and statistical physics の出版社・価格等を知りたい。

**回答例** ごく最近創刊された新刊雑誌については、学術雑誌の新刊雑誌紹介欄や国内・国外書店のSubscription catalogue の新刊雑誌欄を調べる。この場合は、雑誌「情報管理」の新刊雑誌紹介欄にもとづいて、次のように回答した。Marcel Dekker Inc. (アメリカ)が、1971年1月に創刊した、速報性を重視したタイプ印刷の季刊の国際誌で、年間購読料は35ドル(1分冊, 10ドル)である。

**質問8** 愛媛県西宇和郡瀬戸町で合宿することになったので、その町に関する予備知識を得たい。

**回答例** 新しい日本(四国篇)(664ア5)他14点の図書を紹介する。

**質問9** Flinders University of South Australia にフェザー教授は在籍しているか。

**回答例** World of learning (1970~71)(060 W 88)によれば、Feather, H. T. 氏は、心理学の教授として在籍している。

**質問10** W. M. Gentleman & G. Sande 著の“Fast fourier transforms—for fun and profit.” —Proceedings-Fall Computer Conference 1966. を読みたいので、正しい書誌事項を教えてほしい。

**回答例** Engineering index 1967 (830 E 1) により、正確な書誌事項を次のとおり回答し、その大要を提示した。American Federation of Information Processing Society(AFIPS)—Joint Computer Conference-Proceedings. Vol. 29. Fall, 1966, p. 563-78 なお、本学には、該当の29巻が欠号している。

**質問11** 統計数理研究所の多賀保志の研究題目は何か。また最近の論文を紹介してほしい。

**回答例** 研究所要覧・1970 (199ケ9) によると、多賀保志は、企画管理の数理的方法を研究目的として、昭和41年に設置された第3研究室の室長で、その研究課題は、(1)非線型計画法 (2)情報理論と統計的決定函数 (3)数値計算法などである。最近の論文については、この研究所の刊行物である「統計数理研究所集報」「統計研究通信」Annals of the Institute of Statistical Mathematics をチェックしてみるよう回答した。



## 学内マイク

### 昭和47年度の指定図書推薦はじまる

中央図書館では、昭和47年度の指定図書（原則として和漢書）について検討してきたが、昨年同様、箱崎キャンパスの人文・自然科学系学部的全講座を対象とし、専任講師以上の全教官450余名へ今年度も3月末日の期限でもって、推薦を依頼することになった。

推薦のあった指定図書は、速かに整理して、指定図書室に講座別に排架し、学生の利用に供することになる。指定図書制度も、発足してすでに11年目を迎えることになるが、この間、教官各位のご協力によって年々充実してきた。これに応じて、学生の利用も他の図書と較べてかなりの高率を示している。中央図書館では、学生の学習意欲の一層の高揚を計るため、今後もこの制度の充実を推しすすめていきたい考えである。

（中央図書館整理課受入掛）

### 学内図書相互貸借に関する打ち合わせ会 （第1回）

〈とき：46. 11. 24 ところ：中央図書館〉

学内における学部間の図書の相互貸借は、現在中央図書館・分館・学部図書室の一部の間で、それぞれ行なわれている。ところが最近のように、自然科学系分野を中心として発表される論文量の激増、また専門分野の細分化などで、資料の収集および利用が、広範囲にわたってくると、いままでのように個々の学部だけにしか通用しない申し込み用紙を用いていたのでは、学内の相互貸借は煩雑になるばかりである。現に中央図書館の参考掛を経由している医学分館・理学部図書室・農学部図書室等の各学部間の相互貸借は、日々増加の一途をたどっている。そこでとりあえず直接不便を感じている分館・関係学部図書室間で、打ち合わせ会を開くことになった。

現在、中央図書館の参考掛では、文献複写に必要な図書の集配を行なうため、全学に自動車を運行させているが、この際便宜上、頼まれれば各学部間の図書の相互貸借を代行してやることもある。たとえば医学分館から農学部図書室へ図書を運んでやったりする。ところがこの車は、あくまでも中央図書館における複写業務のための図書運搬を目的として購入されたものであるため、各学部間を定期的に運行したりはしていない。以上の不便を解消し、スムーズに学部間の相互貸借の手助けを行なうには今後どうあるべきかを協議した結果、(1)学内相互貸借申込書の統一化。(2)相互貸借による図書集配の定期便化が要望されるに至った。このことについては、今後中央図書館が中心となって、その具体策を検討することになった。

（中央図書館閲覧課参考掛）

#### 土曜日の開館時間および定例休館日の変更について （中央図書館）

中央図書館では、試験期間中、土曜日の開館時間を次のように変更いたします。

1. 期日 2月12, 19, 26日 3月11日
2. 時間 指定・雑誌・一般閲覧室 9～21時  
参考図書室 9～17時

なお、3月1日(水)の定例休館日は、3月27日(月)に変更します。

#### ◆ 人事異動

##### 図書系職員の異動

47. 1. 1 山地 貞子（閲覧課参考掛）採用
- “ 竹下 睦（整理課目録掛） “
- “ 1. 10 神崎 直美（閲覧課参考掛）辞職
- “ 1. 27 友永 勉（閲覧課閲覧掛） “
- “ 2. 1 井上 絢子（教養部受入目録掛）農学部  
図書掛へ配置換
- “ 安川 澄子（農学部図書掛）教養部受入  
目録掛へ配置換